英会話教室Output 代表

# 麻生圭子さん

［私のモットー］

Go anywhere.
Do everything.

**Personal Data**

**Q1 楽しいと思う時間は？**
初めての挑戦、初めての場所、初めて食べるもの、新しい出会いに接するときが楽しいです。

**Q2 あなたの宝物は**
（根拠なく沸き立つ）自身のポジティブな精神。

**Q3 最近うれしかったこと**
英語子育てのきっかけとなった師匠と十数年ぶりに会ってお礼を言ってお互いの近況報告ができたこと。

## 彼女のしごと ～働く現場から～

撮影／杜多洋一　取材・文／小川尚子

**Aso Keiko**
昭和47年（1972年）、大分市出身。会社勤務を経て結婚。平成14年（2002年）に英語子育てサークル『e-house』を発足後、アメリカ（ハワイ、ソルトレークシティー、シアトル、サンフランシスコ、サンディエゴ）での親子留学を重ねたほかメキシコ、中国、韓国、台湾も子連れで訪問。平成22年（2010年）に英会話教室『English Community House』を個人事業化し、平成26年（2014年）、『Output株式会社』を設立。幼稚園での英語レッスンや塾の学童保育を担当するほか、市立小中学校の英会話事業のプロデュースも手掛ける。大分経済同友会会員、大分日米協会法人会員。趣味は旅行、バドミントン。

**Output株式会社**
大分市生石4-2-18 IXY'Sビル1F
✆097-537-3766
https://www.output-japan.com/

**教室のキーワードは「子育ての場」。**
**自然に楽しく英語を覚える環境づくりが大切です。**

「楽しいままここにたどり着いてしまったという感じ。仕事なのか子育てなのか、遊びなのか趣味なのか、垣根がないんですよ」と笑顔を見せるのは、大分市で英会話教室『Output（アウトプット）』を運営する麻生圭子さんだ。少人数のアットホームな雰囲気のもとネーティブの講師によるオール英語のレッスンを行う英会話教室として定評がある。

麻生さん自身、子育ての中で「わが子が英語を話せるようになればかっこいいな」と思っていた。ある英語子育ての集まりに参加したとき、英語を流ちょうに話す日本人の子どもと出会った。「そのお母さんは私の師匠のような存在で、どうやったらこうなるの？と根掘り葉掘り尋ねてまねしました。これが私の英語子育てのスタートです」。その後、なかなか思い通りの英会話スクールが見つからず、ないなら自分でつくろうと英語子育てサークルを発足。翌々年、当時まだ5歳だった長男、4歳の次男、1歳3カ月の三男を連れてアメリカへと親子留学に旅立つ。その後もアメリカ西側を中心に各1～2カ月の期間で親子留学の経験を重ねた。今の場所に教室を開設し、三男の小学校入学のタイミングで事業化した。

教室内はアメリカの一般家庭のリビング・ダイニングを思い起こさせる。「自身が留学時に体験したホームステイ先の環境をここに再現したくて、教室の入っているビル所有者の一級建築士さんに要望を伝えて内装を整えました」。生徒は1歳から高校生までと幅広く大人クラスもある。通って来る生徒たちは、空港の入国審査をイメージした受付でパスポート風の出席帳を提出して教室に入る。平日のレッスンは1コマ55分で、習熟度別に多彩なクラスを設けている。留学生を含む世界各国出身の外国人講師は現在11人。黒板の前で机を並べる学習スタイルではなく、楽しいことをする中で日本語の部分を英語に置き換えて自然にアプローチする工夫を凝らす。週末にはランチタイムを取り入れた長めのクラスを開講するほか、サマースクールやクリスマスに合わせて親子でクッキングを楽しむイベントも催す。

教室の信条はあくまで「子育ての場」だ。「お母さんたちからは教室というよりセカンドハウスみたいねと言われます。家との境界線なくリラックスしてほしいです。英会話は初動が大切で、幼少期から英語を学んでも日本で生活するうえで日本語がおろそかになることはないと考えます。親御さんを巻き込んで、ご家庭でも英語のネット番組を見せたり英語の声掛けをしてもらったりして環境づくりをアドバイスします。教室は応用の場として相乗効果で成果が出ればいいですね」。教室を巣立った生徒たちは成長して県外に出た後も成人式で帰省すると振り袖姿で立ち寄ってくれたり、留学生だった外国人講師が卒業後も日本に残って結婚して顔をのぞかせてくれたり。「20年たつとみんな育ちますね」と麻生さんは笑う。自身の3人の子どもたちも社会人と大学生となり、子育ては一段落した。「第2ステージとして今後は留学サポートに力を入れたい」と次なる夢を温める。モットーの言葉通り「どこへでも行って何でもしよう」の精神で麻生さんの旅は続く。



## OFF

三兄弟の子育て中は質より量の「男めし」中心だった麻生さん。知人や講師陣を招いてのおしゃれ料理が今は楽しい。写真はコースの一品。ローズマリーで香りづけしガーリックバターでフランベしたキャロットステーキ。メニューカードも作ってもてなす。

1 今、麻生さん一押しの留学先はサンディエゴ。祖父母と孫の留学プログラムなども構想中だ。 2 色使いや壁の仕様などにアメリカンスタイルを感じる教室。小物や備品にも心を配る。 3 イベント時には教室のキッチンを使って楽しくクッキング。

西大分港そばのビル1階。オレンジの外観が目印の『Output』。